

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 文修飾機能をもつ副詞的表現「X+にも」について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 呉, 雨 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001617">https://doi.org/10.57529/00001617</a>

# 文修飾機能をもつ副詞的表現「X+にも」について

## A study of sentence-modifying adverbial “X + Nimo”

呉 雨

キーワード：文修飾機能 副詞的表現 「X+にも」特性

关键词：修饰句子功能 副词性表现 “X+にも” 特性

### 要旨

本稿は、文修飾の成分になる連語表現「X+にも」に焦点を当てて、副詞的用法をもつ「X+にも」表現形式の「X」部分の特性を明らかにすることを目的とする。

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ-NT)「中納言」(2011) を利用し「X+にも」形式の副詞的な用法となるものを選定し、研究対象の用例を集めた。文修飾副詞「X+にも」の出現する構文上の位置により、三種類に分類し、その中には文頭に現れる文修飾副詞「X+にも」が基本的であり、後続する文全体を修飾する機能をもっていることが明らかになった。

文修飾副詞「X+にも」の「X」には「哀れ」「うかつ」のような和語もわずかあるが、漢語が極めて多く使われることが判明した。「X+にも」の「X」は漢語と和語いずれであっても、四つの性質をもっていることを明らかにした。

「大胆にも」「賢明にも」「不運にも」のような日本語の文修飾副詞「X+にも」は、英語における文の最初に現れ、文全体を修飾する副詞“Daringly”、“Wisely”、“Unfortunately”を翻訳する際に頻繁に使用されていることが判明した。

### 摘要

本文着眼于作为修饰句子成分的词组表现“X+にも”，旨在探究具有副词性用法的“X+にも”这一表现形式中“X”的特性。

使用现代日语书面语均衡语料库 (BCCWJ-NT) <中纳言>，选出属于“X+にも”形式的副词性用法表现，作为研究对象。根据修饰句子副词性表现“X+にも”在句中所处的位置，将其分为三类。其中，位于句首的修饰句子副词性表现“X+にも”最为常用，具有修饰后接整个句子的功能。

修饰句子副词性表现“X+にも”的“X”中，与“哀れ”“うかつ”这样的和语相比，汉语出现较多。而无论是汉语还是和语的“X”，都可由其特性分为四类。

修饰句子副词性表现“X+にも”中的“大胆にも”“賢明にも”“不運にも”等，常用于翻译英文句子中出现于句首，修饰整个句子的英文副词“Daringly”“Wisely”“Unfortunately”。

## 1 はじめに

一般的に、副詞は主に用言を修飾し、「太郎はゆっくり話した」のように、「ゆっくり」は「話した」という述語にかかる。この例では、「話す」ことの様子を「ゆっくり」と表現している。しかし、次の用例(1)(2)の場合はどうだろう。

- (1) 半三郎の死因は脳溢血である。が、半三郎自身は不幸にも脳溢血とは思っていない。(芥川竜之介『夢の跡』)
- (2) 不幸にも、正確に未来を予言することは、だれにもできない。  
(トーマス・R・デマーク(著)/柳谷雅之(訳)『デマークのチャート分析テクニック』)

以上は、「不幸にも」が副詞的に使われている用例である。(1)(2)のような「不幸」と「にも」で成り立ち、「X+にも」形式の副詞的な用法となる表現形式の特性を明らかにすることを目的とする。「X+にも」の構文的特徴に注目し、語基「X」の表現性について検討する。

「副詞」は品詞の一種であり、品詞の「副詞」に属するものは単独の一語になる。それに対して、「副詞的表現」は、用言(や副詞・名詞)が作る「語・文節・句(・文)」などの前に使われる語、ないし語句の総称であり、複数の語が複合した表現である。「副詞」と「副詞的表現」は異なる範囲において用いられる用語であると考えられる。

本稿で論じるのは、品詞としての「副詞」ではなく、語の複合によって、連用修飾機能を果たす「副詞的表現」である。その中から、とりわけ「文修飾」という文を修飾する機能を取り上げる。文修飾の成分として、一語で現れるものが勿論あるが、連語的表現で現れる場合が圧倒的に多い。文修飾機能の働きがある副詞的表現のうち、「X+にも」という連語的表現を中心に検討することにする。

## 2 先行研究

上記の(1)(2)のような、「副詞的表現」に近いと思われる先行研究として、澤田治美(1978)をはじめとして、中右実(1980)、盧賢珠(1998)、盧賢珠(2000)、

工藤浩(2000)、名嶋義直(2003)などでは、「文副詞」という概念が用いられている。これは、英文法でのsentence-adverbs, sentence adverbials, adverbs of modalityなどの名称の日本語訳による呼び方であると考えられる。

澤田治美(1978)は、英文法の文副詞の定義を紹介し、日英語の文副詞を対照する研究である。

中右実(1980)は、文の意味成分は命題とモダリティに分けられると指摘し、副詞を命題の内側にあるもの(命題内副詞)と、命題の外側にあるもの(命題外副詞)との二つに分類している。また、命題内副詞と命題外副詞と、命題の要素との関係、果たしている機能によって、それぞれの下位分類を行っている。

盧賢珠(1998)は、文副詞「幸い」と「幸いにも」との区別を検討する研究であり、盧賢珠(2000)は、評価成分としての類似形式「-ことに」と「-ことには」の違いを考察する研究である。

工藤浩(2000)は、副詞の分類と機能を概観し、「文の叙述内容に対する話し手の評価を表す」副詞を「評価副詞」と定義し、評価副詞の下位分類を試みている。

名嶋義直(2003)は、語用論の観点から、文副詞を分類し、文副詞による命題への関与には当該文副詞の字義的意味による場合と、構文的特徴による場合と二つがあると述べている。

先行研究を遡ると、英文法で用いられる「文副詞」の概念を用いる研究が多いことがうかがわれる。

以下、いわゆる「文副詞」という「文を修飾する機能をもつ副詞ように使われる表現」を、「文修飾機能をもつ副詞的表現」と呼び、略して「文修飾副詞」という言い方を使うことにする。

### 3 本稿の研究方法与基準

まず、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ-NT)「中納言」(2011)を利用し、「名詞+にも」に当てはまるものを検索する。検索の条件としては、「短単位検索」を指定し、キーの条件を「品詞」-「大分類」-「名詞」にする。後方共起1を「語彙素」-「に」にし、後方共起2を「語彙素」-「も」に設定する。この条件で検索してくるものから、副詞的用法を持つ「名詞+にも」を選定する。

また、『分類語彙表』(2004)で研究対象の範囲を広げる。分類番号「1.体」

「3.相」「4.他」のうち、副詞として使われるものを選ぶ。

さらに、語種の判定は、『新潮国語辞典』(1995)の分類を基準にする。片仮名で表記されるものは漢語になり、平仮名で表記されるものは和語になる。片仮名と平仮名と両方で表記されるものは、混種語になる。

## 4 文修飾副詞「X+にも」の特性

### 4.1 文修飾副詞「X+にも」の出現する構文上の位置

文修飾機能をもつ副詞「X+にも」の用例を分析した結果、文修飾副詞「X+にも」の文中に現れる場所が大きく以下の三種類に分けられることが指摘できる。

- ① (X+にも) [S, P]
- ② Q (X+にも) [S, P]
- ③ [S, (X+にも), P]

注：S：主語 P：述語 Q：接続詞、感嘆詞、時間副詞など

上記の式を説明すると、

- ①「X+にも」は文の最初に現れる。
- ②接続詞、感嘆詞、時間副詞などの類の直後に「X+にも」が現われ、その後ろに文の主語、述語が続く。
- ③「X+にも」が主語と述語に挟まれるという形式になる。

「意外にも」の例を挙げて、文修飾副詞「X+にも」が修飾する文の形式を表1にまとめてみた。

表1 文修飾副詞「X+にも」が修飾する文の形式

「X+にも」が修飾する文の形式	例文	文に現れる位置
① (「X+にも」) [S, P]	(3) <u>意外にも</u> 日本人研究者は気がつかないことであるが、道教よりも道家の語を使って道教を語る論著が、漢人には多いのである。 (福井文雅『漢字文化圏の座標』)	文の最初

② Q (「X+にも」) [S, P]	(4) <u>しかし</u> 、 <u>意外にも</u> 敵機の速度のほうが速く、ともすれば引き離されがちになる。 (渡辺洋二『死闘の本土上空』)	接続詞の直後
	(5) <u>あら意外にも</u> 白もいいじゃない。 (大林宣彦『さびしんぼう乾盃!』)	感嘆詞の直後
	(6) <u>昨年</u> 、 <u>意外にも</u> 収穫が多かった茗荷の株から今年も元気に芽が出てきました。 (Yahoo!ブログ・家庭と住まい/住まい/ガーデニング)	時間副詞の直後
③ [S、(「X+にも」)、P]	(7) このときの気分は、 <u>意外にも</u> 、何だかワクワクする感じでしたね。 (榎原富士子・貴志友彦『これからの選択夫婦別姓』)	主語と述語の間

分類②では、接続詞、感嘆詞、時間副詞などは後ろに来る文とは直接関わらず、文の内容にも影響を与えていないため、分類②のものも分類①の「Xにも」が文の最初に現れるものと見なすことができる。つまり、分類②は、分類①と共通していると考えられる。

また、形式上では、分類③は、分類①、②と明らかに異なるが、分類③に属するものを分類①の形式に置換することができる。例えば、表1の(7)を以下のように置き換える。

(7) 意外にも、このときの気分は何だかワクワクする感じでしたね。

したがって、文頭に現れる文修飾副詞「X+にも」の分類①が基本的であり、その「X+にも」が後続する文全体を修飾する機能をもっていることが明らかになった。

#### 4.2 文修飾副詞「X+にも」の「X」の語種

BCCWJから文修飾機能をもつ副詞「X+にも」の用例を収集し、表2のように、用例数の多い語基順に掲げる。

表2 文修飾副詞「X+にも」の語基「X」

番号	語基	用例数	語種	番号	語基	用例数	語種
1	意外	293	漢語	2	幸い	176	和語

番号	語基	用例数	語種	番号	語基	用例数	語種
3	偶然	152	漢語	46	厚顔	2	漢語
4	幸運 (好運)	118	漢語	47	傲慢	2	漢語
5	皮肉	111	漢語	48	滑稽	2	漢語
6	不幸	88	漢語	49	残酷	2	漢語
7	無残 (無惨・無慚)	49	漢語	50	残念	2	漢語
8	不覚	47	漢語	51	慎重	2	漢語
9	大胆	45	漢語	52	正当	2	漢語
10	迂闊	38	漢語	53	単純	2	漢語
11	不運	35	漢語	54	薄情	2	漢語
12	愚か	26	和語	55	悲運	2	漢語
13	不思議	23	漢語	56	悲惨	2	漢語
14	哀れ (憐れ)	18	和語	57	無遠慮	2	漢語
15	健気	17	和語	58	不可解	2	漢語
16	賢明	17	漢語	59	不謹慎	2	漢語
17	親切	17	漢語	60	不条理	2	漢語
18	勇敢	16	漢語	61	大胆不敵	2	漢語
19	無情	14	漢語	62	不用意	2	漢語
20	当然	12	漢語	63	無神経	2	漢語
21	果敢	11	漢語	64	無責任	2	漢語
22	丁寧	11	漢語	65	無念	2	漢語
23	気丈	10	漢語	66	冷酷	2	漢語
24	奇妙	10	漢語	67	鋭敏	1	漢語
25	軽率	10	漢語	68	横柄	1	漢語
26	気の毒	9	混種語	69	臆病	1	漢語
27	生意気	9	混種語	70	感心	1	漢語
28	無謀	7	漢語	71	奇怪	1	漢語
29	寛大	5	漢語	72	奇遇	1	漢語
30	非情	5	漢語	73	愚直	1	漢語
31	光荣	4	漢語	74	軽薄	1	漢語
32	巧妙	4	漢語	75	劍突	1	漢語
33	贅沢	4	漢語	76	下劣	1	漢語
34	卑怯	4	漢語	77	言語道断	1	漢語
35	不注意	4	漢語	78	失礼	1	漢語
36	不当	4	漢語	79	殊勝	1	漢語
37	不本意	4	漢語	80	醉狂	1	漢語
38	無邪気	4	漢語	81	拙速	1	漢語
39	案外	3	漢語	82	浅薄	1	漢語
40	陰険	3	漢語	83	聡明	1	漢語
41	豪胆	3	漢語	84	粗末	1	漢語
42	無慈悲	3	漢語	85	巧み	1	和語
43	理不尽	3	漢語	86	懇切丁寧	1	漢語
44	気紛れ	2	混種語	87	適切	1	漢語
45	苦勞	2	漢語	88	破廉恥	1	漢語

番号	語基	用例数	語種	番号	語基	用例数	語種
89	不敬	1	漢語	97	望外	1	漢語
90	不遜	1	漢語	98	惨め	1	和語
91	傲岸不遜	1	漢語	99	無鉄砲	1	漢語
92	不逞	1	漢語	100	無反省	1	漢語
93	不敵	1	漢語	101	無法	1	漢語
94	不埒	1	漢語	102	優秀	1	漢語
95	無様(不様)	1	混種語	103	用意周到	1	漢語
96	不粋	1	漢語	104	乱暴	1	漢語

表2から見ると、文修飾副詞「X+にも」においては、漢語の語基「X」が極めて多く使われ、漢語が中心的な存在であることが明らかである。

それに対して、表2で示される「幸い」「哀れ」「惨め」のような和語の語基も存在している。和語では、その中でも特に「幸い」の用例数が多いことが注目される。

#### 4.3 文修飾副詞「X+にも」の語基「X」の意味上の性質

前節の分析によると、文修飾副詞「X+にも」の語基「X」には、漢語語基「X」が中心的に存在することが明らかになったため、文修飾副詞「X+にも」の語基「X」の意味上の性質について、まず漢語の語基「X」から分析する。

##### 4.3.1 漢語の語基「X」

収集した用例を分析すると、文修飾副詞「X+にも」の漢語の語基「X」は以下のような性質をもっていると言える。

i できごとの発生自体に対する話者の驚きを表すもの。

例えば、「意外」「偶然」「大胆」など。

- (3) 意外にも日本人研究者は気がつかないことであるが、道教よりも道家の語を使って道教を語る論著が、漢人には多いのである。

(福井文雅『漢字文化圏の座標』)

- (8) この時パウル少年は十三歳だった。父が毛皮の縫製職人だったので、パウル少年は仕方なく、父から手ほどきを受け、同じ職人の道を歩みだすことにした。これが運命の分かれ道となった。偶然にもその後、ナチスが毛皮の縫製職人を集め始めたのだ。(堀野収『ウィーン素描』)

- (9) (前略) 大胆にも彼はこの公準が証明できるかどうかは問題にせず、そもそもそれが必要であるかどうかを問題にした。

(竹内均『数学の天才列伝』)

ii できごとの発生が運命と関わっている、話者の理解を表すもの。

例えば、「幸運」「不幸」「不運」「悲運」など。

- (10) 幸運にも、広瀬助教授は帰宅寸前だったが、まだ室内にいた。

(斎藤栄『イエス・キリストの謎』)

- (11) なぜ彼の馬の脚はこの時急に騒ぎ出したか？ その疑問に答えるためには半三郎の日記を調べなければならぬ。が、不幸にも彼の日記はちょうど最後の打撃を受ける一日前に終わっている。(芥川龍之介『夢の跡』)

- (12) その「ベビー・グラハム」はレース飛行中、不運にもエンジントラブルに合い墜落。ブレリオ機のグラハム・ホワイトが優勝した。

(原俊郎『ライト兄弟の秘密』)

- (13) こうした地方の小都市のアメリカ人に主張を訴えることができず、ERAは悲運にも南部諸州で次々と否決されていった。

(M・J・ワイズ(著)/和田仁・田中洋(訳)『アメリカライフスタイル全書』)

なお、判定は難しいが、「不本意にも」「無慈悲にも」は「幸運にも」「不幸にも」「不運にも」のように、できごとの発生に対する話者の理解を表すものに分類しておいた。

- (14) ブル・コナーは七年前に死んでいた。彼の名前に象徴されるこの時代はるか昔の出来事になっている。だが、彼は、不本意にも、歴史に対してめったにない資料を提供することになった。

(ハリソン・E・ソールズベリー(著)/後藤洋一(訳)『変革の時代』)

- (15) のどがはれあがるため呼吸が困難になり、まるでおぼれているかのような場違いな、しかしおそろしい感覚におそわれる。そして太陽が無慈悲にも身体に残った最後の水分を奪ってしまうと、「生ける屍」となる。

(ナサニエル・フィルブリック(著)/相原真理子(訳)『復讐する海』)

iii 発生したできごとに対する話者の価値観を表すもの。

そのうち、話者の批判を表し、批判的なものがある。

例えば、「卑怯」「傲慢」「陰険」など。

- (16) いまだ！いまこそ絶好のそのタイミングだ！ところが、なんとしたことだろう。一瞬後、高松愚哲は、この絶好のチャンスを生かすどころか、卑怯にもジリジリと後ずさりしていたのだった。

(李恢成『北方からきた患者』)

- (17) 多文化主義者たちは、学習指針の拡大への消極性が偏見と悪意の混合に由来するものと想定しつつ、これらの人々が傲慢にも、かつて支配下にあった諸民族に対する自らの優越怪を想定しているとして非難するのである。

(チャールズ・テイラー (著) / 辻康夫 (訳) 『マルチカルチュラリズム』)

- (18) 朝の弱い私も泣く泣く水曜だけは七時に起きてラッシュの電車にのり、大学にむかうのだが、とにかく九十分授業だし、出席とりに間にあえばいいからというので半分すぎたところを見はからって出てゆくと、またまた陰険にも、その日に限って出席は授業のさいしょにとってしまった。

(中島梓『マンガ青春記』)

逆に、話者の好意的な評価を表すものも見られる。

例えば、「親切」「勇敢」「寛大」「果敢」など。

- (19) 一郎君はもうだめだとおもいました。この怪物につかまえられて海の底につれていかれるのだと、決死のかくごをきめました。そして、勇敢にも岩かげから顔を出して、怪物とにらみあったのです。

(江戸川乱歩『海底の魔術師』)

- (20) 彼らは、なにかにつけ助けになるし、近隣の住民のぐちもころよく聞いてくれるし、親切にもケンカの仲裁に入ってくれる。

(カレル・ヴァン・ウォルフレン (著) / 篠原勝 (訳) 『日本/権力構造の謎』)

- (21) リトル博士は上海に私設の測候所を持っており、寛大にも、わたしにその設備を使わせてくれた。

(G・クライトナー (著) / 森田明 (訳) 『東洋紀行』)

- (22) さきほどの彼女との一件で、すっかり強気になったK氏が、果敢にも彼女たちに取材を申し込んだが、あっさりと断られてしまった。

(立木ありあ『恋愛の市場心理』)

iv 話者の論理的判断を表すもの。

例えば、「当然」「正当」など。

(23) 共産主義諸国家のなかでは、衛星国ではなくソヴェト連邦のみが自主決定と自立的発展との資格を付与されているにすぎない。五十年代をつうじて、ソヴェト連邦はアメリカ合衆国と同様に、第三世界の非植民地化を支持した。それは正当にもアメリカ合衆国やその他の資本主義列強の新植民地主義と介入主義とを批判し、解放運動を支援した。

(トマス・マイヤー(著)/佐藤忍(訳)/徳永重良(訳)『ドイツ社会民主主義入門』)

(24) 「である」体にて完成をみる書かれた標準語を話すことを目途とした言文一致は、言葉を均一化し、当然にも小説の言語を著しく貧しくさせた。言文一致以降の作家は、おしなべてこの難題との格闘を強いられた。

(中島一夫『「総特集」林芙美子』)

上記の「X+にも」の語基「X」の性質を表3で示すと、以下のようになる(以下の語基は出現数順であり、括弧内の数値は用例数である)。

表3 「X+にも」の漢語語基の意味上の性質

性質	漢語の語基
i できごとの発生自体に対する話者の驚きを表す	意外(293) 偶然(152) 皮肉(111) 無残(無惨・無慚)(49) 不思議(23) 無情(14) 奇妙(10) 非情(5) 光荣(4) 贅沢(4) 案外(3) 滑稽(2) 残酷(2) 単純(2) 不可解(2) 無念(2) 感心(1) 奇怪(1) 奇遇(1) 望外(1)
ii できごとの発生が運命と関わると思う、話者の理解を表す	幸運(好運)(118) 不幸(88) 不運(35) 不本意(4) 無慈悲(3) 悲運(2)
iii 発生したできごとに対する話者の価値観を表す	批判的 不覚(47) 迂闊(38) 軽率(10) 生意気(9) 無謀(7) 卑怯(4) 不注意(4) 不当(4) 陰険(3) 理不尽(3) 苦勞(2) 厚顔(2) 傲慢(2) 薄情(2) 無遠慮(2) 不謹慎(2) 不条理(2) 不用意(2) 無神経(2) 無責任(2) 冷酷(2) 横柄(1) 臆病(1) 愚直(1) 軽薄(1) 剣突(1) 下劣(1) 言語道断(1) 失礼(1) 醉狂(1) 拙速(1) 浅薄(1) 粗末(1) 破廉恥(1) 不敬(1) 不遜(1) 傲岸不遜(1) 不逞(1) 不埒(1) 不粹(1) 無鉄砲(1) 無反省(1) 無法(1) 乱暴(1)

	好意的 大胆(45) 賢明(17) 親切(17) 勇敢(16) 果敢(11) 丁寧(11) 気丈(10) 寛大(5) 巧妙(4) 豪胆(3) 慎重(2) 大胆不敵(2) 鋭敏(1) 殊勝(1) 聡明(1) 懇切丁寧(1) 不敵(1) 優秀(1) 用意周到(1)
iv 話者の論理的判断を表す	当然(12) 正当(2) 適切(1)

### 4.3.2 和語の語基「X」

和語の語基「X」には、「幸い」「愚か」「哀れ」「健気」「巧み」「惨め」のような用例が見られる。これらが、前節で検討した漢語の語基「X」の意味上の分類と一致するかどうかを確認する。

表4から見ると、和語の語基「X」も漢語の語基「X」の意味分類に当てはまるということが明らかである。

表4 「X+にも」の和語語基の意味上の性質

性質	和語の語基		用例
i できごとの発生自体に対する話者の驚きを表す	哀れ (憐れ)		(25) 彼は哀れにも、裸足の上にパンツ一枚で映画館を出てきたらしい。 (高岸弘『ウソも芸術、イタリアン』)
ii できごとの発生が運命と関わると思う、話者の理解を表す	幸い		(26) (前略) が、幸いにも、痛み止めをもらうとたえ子の腹痛はぴたりとおさまり、数日間は微熱に悩まされたものの、みるみる健康を取り戻すことになった。 (宮部みゆき『理由』)
iii 発生したできごとに対する話者の価値観を表す	批判的	愚か	(27) 父は自由を手に入れたはしたが、愚かにもほかのすべてを失ったのだ。 (スーザン・マレリー (著) / 水山春 (訳) 『悲しき片想い』)
	好意的	健気	(28) 主婦たちは、健気にも、違反撤去令とすれすれのところで日々戦っている。 (草森紳一『コンパクトカメラの大冒険』)
iv 話者の論理的判断を表す			なし

#### 4.4 翻訳語との関連性

以下の (29) は、文修飾副詞「寛大にも」の用例である。

(29) 両氏の親切な歓待と、上海滞在ができるだけ快適であるようにと取り計らってくれた数々の好意あふれる骨折りに対し、特に感謝の意を表したい。わたしをほかのドイツ人に紹介してくれ、ことにリトル博士の面識を得るようにお膳立てしてくれたのは、ほかならぬこの両氏であった。リトル博士は上海に私設の測候所を持っており、寛大にも、わたしにその設備を使わせてくれた。

(G・クライトナー(著)/森田明(訳)『東洋紀行』)

用例 (29) では、「(リトル博士が) わたしにその設備を使わせてくれたことが寛大である。」と置き換えられるため、ここの「寛大にも」は文を修飾する機能をもつ副詞的表現になる。

また、「寛大にも」は主語の「リトル博士」と、述語の「わたしにその設備を使わせてくれた」との間に現れ、分類③ [S、(Xにも)、P] の形式になる。

ここでは、「リトル博士がわたしに私設の測候所の設備を使わせてくれた」ことに対して、話者は「寛大」であると好意的に評価している。

他の「寛大にも」の用例は全て (29) のような翻訳された作品から引用されものである。「寛大にも」という表現は、従来、英文における“generously”に対応するため、翻訳された作品に出現されやすくなり、英語のような外国語における注釈する働きを果たす表現と関わるのが文修飾副詞「寛大にも」の顕著な特徴である。

これをきっかけにして、文修飾副詞「X+にも」の英和・和英辞書の用例を考察する。

表5 英和・和英辞書における文修飾副詞「X+にも」の用例

語基	用例	関連する例
意外	(N) 意外にも私の言ったことが人々に誤解された。 To my surprise, they misunderstood me [what I said]. (W) 意外にも彼は成功した。 Contrary to expectation, [Contrary to my expectations] he has succeeded. (W) 彼は意外にも友好的だった。 He was surprisingly friendly.	

語基	用例	関連する例
幸い	(A) 幸いにも彼はそのコンサートのチケットを手に入れることができた。He was <u>lucky enough</u> [had the <u>good fortune</u> ] to get the ticket for the concert. (N) 幸いにも私の試みは成功した。 I was <u>fortunate enough</u> to succeed in my attempt.	
偶然	(W) 偶然にも彼は私の同期である。 <u>As it happens</u> , he is my contemporary. (W) 偶然にも私は彼を知っているの。 <u>Coincidentally enough</u> , I know him.	
幸運 (好運)	(N) 幸運にも当選した。 <u>Luckily</u> [Fortunately], I was elected. (A) 幸運にも私たちは村に通じる道路に出た。 <u>Luckily</u> , we hit a road which led to a village.	
皮肉	(N) 皮肉にも警察官が泥棒に財布を盗まれた。 <u>Ironically</u> , the police officer was robbed of his wallet by a thief.	
不幸	(A) 不幸にも彼女は両親を一度失った。 <u>Unfortunately</u> , she lost her parents at the same time.	
無残 (無惨・無慚)	(A) 彼の希望は無残にも打ち砕かれた。 His hopes were destroyed <u>miserably</u> . (W) 彼は無残にも沢山の人々を殺害した。 He killed so many people <u>unmercifully</u> .	
不覚	(A) 彼は不覚にも涙を流してしまった。 He started crying <u>despite</u> himself. (W) 不覚にも、貴団体にご迷惑をお掛けしてしまい、本当にすみませんでした。 Please accept my sincere apology for causing a trouble to your group.	
大胆	(N) 彼は大胆にも一人でその敵に立ち向かった。 He <u>was bold</u> [brave] <u>enough to</u> engage the enemy all alone. (W) 大胆にも彼は東アフリカのキャンプ旅行に出かけた。 <u>Daringly</u> , he set out on a camping trip in East Africa.	
うかつ	(A) うかつにも彼女にそれを言ってしまった。 I <u>thoughtlessly</u> told it to her. (W) うかつにもそれに気付かなかった。 It <u>was careless of</u> me not to notice it. (W) うかつにもそれを見逃してしまった。 I missed it <u>inadvertently</u> .	
不運	(A) 彼は不運にも財産を失った。 <u>Unfortunately</u> [unluckily], he lost everything he owned. / It was unlucky [unfortunate] that he lost he lost everything he owned. (W) 不運にも、彼はその事故で脚を折ってしまった。 <u>Unfortunately</u> , he got his leg broken in the accident.	

語基	用例	関連する例
愚か	(A) 愚かにも解答用紙に名前を書き忘れてしまった。 <u>Foolishly</u> , I forgot to write my name on the answer sheet. (N) 私は愚かにもその男を信用してしまった。 I <u>was foolish enough to</u> trust him.	
不思議	(N) 不思議にも彼だけは助かった。 <u>Astonishingly</u> , he alone escaped unhurt.	(A) 不思議なことに彼女とそこで会わなかった。 Oddly enough, I didn't see her there.
哀れ(憐れ)	(N) 哀れにもその子は両親を失った。 The <u>poor</u> boy lost both his parents.	
健気	(A) けなげにも少女はひとりで病床の両親の世話をした。 It was admirable [praiseworthy] of the girl to take care of her parents sick in bed all by herself.	
賢明	(A) 賢明にも達郎は沈黙を守った。 <u>Wisely</u> , Tatsuto kept silent.	
親切	(A) 彼女は親切にもその男の子を病院まで連れていった。 She <u>kindly</u> took the boy to the hospital. / She <u>was kind enough to</u> take the boy to hospital.	
勇敢	(N) 彼女は勇敢にも独りで二人の男に立ち向かった。 She <u>had the courage to</u> face the two men alone. (A) 彼は勇敢にもひとりで政府と戦った。 He <u>was brave [courageous] to</u> fight against the government by himself.	
無情	(N) 彼は無情にも困っている友を捨てた。 He <u>was cold-hearted enough to</u> let down a friend in need. (A) 彼の放ったシュートは無情にもゴールポストに跳ね返された。 The shot he took was <u>heartlessly</u> rejected by the goalpost.	
果敢	(W) 彼女は果敢にもその問題に正面から立ち向かった。 She squared up to the problem <u>courageously</u> . (W) 果敢にもボートに乗り込んで行くと、スターキーにつかみかかったのです。 Who <u>gallantly</u> climbed into the boat and held Starkey.	
奇妙	(W) 奇妙にも、学生の数が毎年減ってきている。 <u>Strangely</u> , the number of students is decreasing each year.	(A) 奇妙なことに、彼女は私の名前ばかりか誕生日まで知っていた。 <u>Strangely enough [Strange to say]</u> , she knew not only my name but also my birthday.

語基	用例	関連する例
軽率	(W) 軽率にも、彼は夕食に招待してくれるよう頼んだ。 <u>Inconsiderately</u> , he asked to be invited for dinner.	
気の毒	(W) そのうえ、 <u>気の毒にも</u> その人は夢にも思わなかったことだが、彼らは前もって彼を解雇することに決めていた。 Moreover, which the <u>poor</u> man never expected, they had decided in advance to dismiss him.	
生意気	(W) 生意気にも彼は私の申し出を断った。 He <u>had the presumption to</u> reject my proposal.	
無謀	(W) 彼は無謀にも君に向かって弓を引いた。 He <u>had the hardihood to</u> draw the sword against his lord.	
寛大	(W) 寛大にも彼は我々を許してくれた。 <u>Generously</u> , he forgave us. (W) 女王は寛大にも我々を招待してくださいました。 The queen <u>was gracious enough to</u> invite us.	
非情	(A) 彼が答えを思い出した瞬間、非情にも試験終了のベルが鳴った。 The moment he thought of the answer, the <u>unfeeling</u> bell rang, ending the test.	
卑怯	(N) 卑怯にも彼は逃げ出した。 He <u>was timid [chicken] enough to</u> run away.	
不注意	(W) 彼は不注意にもバスの中にカメラを忘れた。 He <u>carelessly</u> forgot the camera in the bus. (N) 私は不注意にもその男を信用してしまった。 It <u>was careless enough to</u> trust him.	
不当	(W) 彼は不当にもその事故の責任を負わされた。 He was <u>undeservedly</u> blamed for the accident. (W) 彼は不当にも議長だと自称した。 He <u>arrogated</u> the chairmanship to himself.	
不本意	なし	(N) 甚だ不本意ながらこの処置を取らざるを得ません。 We have been obliged to take this step (though it is) very much <u>against our will</u> .
無邪気	(W) 母は無邪気にも「もっとビールを召し上がるの」と尋ねた。 Mom <u>was innocent enough to</u> ask him, Would you like any more beer?	

語基	用例	関連する例
無慈悲	<p>(W) 無慈悲にも彼は父の死の仇を多くのトロイア人に晴らし、アキレウスが率いた部下たちがその息子につき従い、左右を屠り、駆けてはトロイア兵の肩の間を槍で突いた。</p> <p><u>Cruelly</u> he avenged his father's death on many a Trojan, and the men whom Achilles had led followed Achilles' son, slaying to right and left, and smiting the Trojans, as they ran, between the shoulders with the spear.</p> <p>(W) 朝が来て明るくなると、ジョンジーは無慈悲にも、日よけを上げるようにと命じました。</p> <p>When it was light enough Johnsy, <u>the merciless</u>, commanded that the shade be raised.</p>	
厚顔	<p>(N) 厚顔にも昇給を要求した。</p> <p>He <u>had the nerve [impudence]</u> to ask for a pay raise.</p>	
残念	なし	<p>(A) 残念なことに遠足は中止になった。</p> <p><u>To our disappointment</u>, the excursion was canceled.</p> <p>(A) 残念ながら在庫はありません。</p> <p><u>I'm afraid</u> we are out of stock.</p> <p>(A) 残念ながらその写真は今持っていないんです。</p> <p><u>Unfortunately</u>, I don't have the photo now.</p>
正当	<p>(W) ただ自分だけにかかわっている部分では、<u>正当</u>にも、彼の独立性は絶対のものなのです。</p> <p>In the part which merely concerns himself, his independence is, <u>of right</u>, absolute.</p>	
不可解	<p>(W) 不可解にも彼はずっと黙ったままだった。</p> <p><u>Unaccountably</u>, he kept silent.</p>	
不謹慎	<p>(N) 閣僚の一人が不謹慎にも政府の決定を新聞記者に洩らした。</p> <p>One of the Cabinet members <u>was indiscreet [imprudent] enough</u> to leak the Government decision to the press.</p>	
大胆不敵	<p>(W) 私は絶対に大丈夫という思いから<u>大胆不敵</u>にも老人の遺体をばらまいたちようと真上に椅子を置いて腰掛けたのです。</p> <p>While I myself, <u>in the wild audacity of my perfect triumph</u>, placed my own seat upon the very spot beneath which reposed the corpse of the victim.</p>	

語基	用例	関連する例
冷酷	(W) 政府は、 <u>冷酷にも</u> ストライカーを収拾するための、迅速な措置をとるよう迫られた。 The government has been urged to take immediate action to deal <u>ruthlessly</u> with the strikers.	
横柄	(W) <u>横柄にも</u> 、ほくが日曜の午後にすべきことなど他にあるはずがないと決めつけたのだ。 The <u>supercilious</u> assumption was that on Sunday afternoon I had nothing better to do.	
感心	(W) <u>感心にも</u> 彼は貧乏な親類を見捨てなかった。 <u>Much to his credit</u> , he didn't abandon his poor relatives. (W) しかし <u>感心にも</u> 彼は彼女に不利なことは何も言わなかった。 But, <u>to his credit</u> , he didn't say anything against her.	
殊勝	(W) あの男は <u>殊勝にも</u> 簿給の中から弟どもの学資を仕送っている。 <u>It is to his credit that</u> , out of his scanty pay, he supplies his brothers with their school-expenses.	
破廉恥	(W) 彼は <u>破廉恥にも</u> 人を食いものにする。 He's <u>unscrupulous</u> in his exploitation of people.	
不敬	(W) 学生は、 <u>不敬にも</u> 彼の面前で教師を模倣した。 The student <u>irreverently</u> mimicked the teacher in his presence	
不敵	(A) 彼女は <u>不敵にも</u> 会社の方針を批判した。 She <u>was bold enough to</u> criticize the company policy.	
無鉄砲	(W) <u>無鉄砲にも</u> こんなやつらと一緒に上陸したからには、せいぜいできることはやつらの相談を盗み聞きすることだ。 That since I had <u>been so foolhardy as to</u> come ashore with these desperadoes, the least I could do was to overhear them at their councils.	
無法	(W) 彼は <u>無法にも</u> 私をつえで打とうとした。 He <u>went so far as to</u> strike at me with a stick.	

注：(W)はWeblio英和辞典・和英辞典であり、  
(A)は『アドバンスト フェイバリット和英辞典』であり、  
(N)は『新和英中辞典』である。

上記の表5の用例は、国語辞典において見られない、英和・和英辞典においてよく見られる表現の一部である。

表5によると、「大胆にも」「賢明にも」「不幸にも」のような日本語の文修飾副詞は、英語に翻訳されると、“Daringly”、“Wisely”、“Unfortunately”になり、こ

これらの英語の表現は、文の最初に現れ、文全体を修飾する副詞的機能を果たしている。

英語の「文副詞」に関する研究を参考すると、安武知子(1978)では、英語の「文副詞の大部分は、命題の外側に立って、命題に対する話者の主観を表すものである」という言及がある。

安武知子(1978)によると、文副詞が「a. 遂行的副詞、b. 認識の副詞、c. 断定副詞」にわけられる。そのうち、文頭や文中に置かれる“*Ironically*” (皮肉にも)、“*unfortunately*” (不幸にも)、“*Surprisingly*” (驚いたことに)、“*Happily*” (うれしいことに)のような「文内容に対する話者の主観的評価を与え、命題の真を前提する」文副詞を、「評価的副詞」と見なされている。“*Wisely*” (賢明にも)、“*foolishly*” (愚かにも)のような「文の表面主語の行為に対する話者の主観的評価を表す」ものが、「主語形容副詞」と呼ばれている。また、「主語形容副詞」は意味的に「人間の賢さ」を表すものが特徴的であり、「プラス」、「マイナス」で下位区分されている。

英語においても「文副詞」が「命題の外側に立って、命題に対する話者の主観を表す」働きを果たすことが見られる。つまり、上述の「寛大にも」のような、日本語における文修飾副詞表現は、英語などの外国語の翻訳と深く関わると考えられる。翻訳調の文章に頻繁に使用されていることが特徴的である。

表5から、「不思議にも」「奇妙にも」「不本意にも」「残念にも」と関わる「不思議なことに」「奇妙なことに」「不本意ながら」「残念なことに」「残念ながら」のような類義表現も見られる。文修飾副詞「X+にも」と類義する表現「X+なことに」「X+ながら」とどの点で共通しているか、どの点で異なるかという比較は興味深い考察になるが、今後の課題として検討する余地があると考えられる。

## 5 おわりに

文修飾の成分になる連語表現「X+にも」に焦点を当てて、副詞的用法をもつ「X+にも」表現形式の「X」部分の特性を考察してきた。その結果、文修飾副詞「X+にも」の出現する構文上の位置により、三種類に分類したところ、その中で文頭に現れる文修飾副詞「X+にも」が基本的であり、後続する文全体を修飾する機能をもっていることが明らかになった。

次に、文修飾副詞「X+にも」の「X」には「哀れ」「幸い」のような和語もわずかにあるが、漢語が極めて多く使われることが判明した。

さらに、「X+にも」の「X」は漢語と和語いずれであっても、以下のような性質をもっていることが明らかになった。

- i 「意外」「偶然」「哀れ」のようなできごとの発生自体に対する話者の驚きを表す。
- ii 「幸運」「不幸」「不運」「幸い」などできごとの発生が運命と関わるという話者の理解を表す。
- iii 発生したできごとに対する話者の価値観を表す。  
そのうち、「卑怯」「傲慢」「愚か」などは話者による批判を表す。  
逆に、「親切」「勇敢」「寛大」「健気」などは話者の好意的な評価を表す。
- iv 「当然」「正当」のような話者の論理的判断を表す。

以上のように、文修飾機能をもつ副詞的表現「X+にも」の「X」の特性を明らかにした。

最後に、英語における文の最初に現れ、文全体を修飾する副詞“Daringly”、“Wisely”、“Unfortunately”を翻訳する際に、「大胆にも」「賢明にも」「不運にも」のような日本語の文修飾副詞「X+にも」は、頻繁に使用されていることが判明した。

なお、一つの連語的表現である文修飾副詞「X+にも」における接辞の「にも」の特性に関しては、検討の余地が残る。

#### 参考資料

- [1] 浅野博ほか編 (2004) 『アドバンスト フェイバリット和英辞典』東京書籍
- [2] 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表』大日本図書
- [3] 国立国語研究所 (2011) 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ-NT)
- [4] 日本語文法学会 (2014) 『日本語文法事典』大修館書店
- [5] 飛田良文ほか編 (2007) 『日本語学研究事典』明治書院
- [6] 松村明編 (2006) 『大辞林 第三版』三省堂
- [7] 山田俊雄ほか編 (1995) 『新潮国語辞典：現代語・古語』第2版 新潮社
- [8] Martin Collickほか (2002) 『新和英中辞典』第5版 研究社
- [9] 『Weblio 英和辞典・和英辞典』<https://ejje.weblio.jp>

#### 参考文献

- [1] 沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子 (2011) 『図解日本の語彙』三省堂

- [2] 工藤 浩 (2000) 「副詞と文の陳述的なタイプ」 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店
- [3] 澤田治美 (1978) 「日英語文副詞類 (Sentence Adverbials) の対照言語学的研究」『言語研究』74 日本言語学会
- [4] 杉戸清樹 (1983a) 「待遇表現としての言語行動－「注釈」という視点」『日本語学』2-7 明治書院
- [5] 趙 英姫 (2013) 「近現代の漢語副詞の成立」野村雅昭編『現代日本漢語の探求』東京堂出版
- [6] 中右 実 (1980) 「文副詞の比較」国広哲弥編『日英語比較講座第2巻 文法』大修館書店
- [7] 名嶋義直 (2003) 「いわゆる文副詞に関する一考察」日本語文法3(2)日本語文法学会
- [8] 西原鈴子 (1991) 「副詞の意味機能」『日本語教育指導参考書 19副詞の意味と用法』国立国語研究所
- [9] 野田春美 (2011) 「新聞における漢語副詞の“ゆれ”」『神戸学院大学人文学部紀要』31 神戸学院大学人文学部
- [10] 野村雅昭 (1998) 「現代漢語の品詞性」『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究集』汲古書院
- [11] 畠 郁 (1991) 「副詞論の系譜」『日本語教育指導参考書 19副詞の意味と用法』国立国語研究所
- [12] 前田富祺 (1983b) 「漢語副詞の変遷」『国語彙史の研究』4 和泉書院
- [13] 前田富祺 (1983a) 「漢語副詞の種々相」渡辺実編『副用語の研究』明治書院
- [14] 森本順子 (1994) 『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版
- [15] 矢澤真人 (2000) 「副詞的修飾の諸相」『日本語の文法1 文の骨格』岩波書店
- [16] 安武知子 (1978) 「文副詞の機能に関する一考察」『外国語研究』15 愛知教育大学外国語研究室
- [17] 盧 賢珠 (1998) 「文副詞としての「-も」の考察「幸い」と「幸いにも」を中心に」『岡大國文論稿』26 岡山大学
- [18] 盧 賢珠 (2000) 「評価成分の「-ことに」と「-ことには」について」『大学院文化科学研究科紀要』第9号 岡山大学